

特定非営利活動法人 地域福祉を考える会

ニュースレター

発行：NPO法人「地域福祉を考える会」
発行人：理事長 志村 忠臣
事務局：〒259-1142
伊勢原市田中 300 番地の 1-202
Tel・Fax 0463-95-6665
メール rtbyw740@ybb.ne.jp



東北地方太平洋沖地震の被災地・被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。
理事長 志村 忠臣



『市民活動が 地域社会をつくる』 理事・事務局長 中台和子

この度の東北地方太平洋沖地震では、住民ひとり一人の連帯・助け合いの大切さと、国・地方自治体の強力なリーダーシップの重要性を再認識いたしました。この国難ともいえる大きな災害に全力で立ち向かい、一日も早い復興を果たすとともに、今回の貴重な経験をもとに、より災害に強いまちづくりを行っていくことが私たちの責務だと思っております。

「災害に強いまちづくり」とは…もちろん頑強な堤防や道路やライフラインの整備はもとより、人と人のありよう…つまり地域コミュニティの醸成こそが、一番大切なのだと、被災地の状況を見るにつけ、強く感じます。

「市民活動」と、普段の近所付き合いや子どもを通じてのお付き合いなどを大切にすることが重要であり、それが地域社会を住みよくする活動でありお互いを支えあう活動だと思います。

「災害ボランティア」という言葉が、阪神大震災を機に脚光を浴びてきましたが、まず身近なところでの助け合いが初動段階では重要です。

私たちの、児コミ活動や子育て広場きらきらの活動、友愛電話活動などは、その意味で『人と人をつなぐ』大変重要な意味を持っているのだと再認識させられました。『災害』は、強い者・健常者・弱い者問わず、一瞬のうちに地域住民すべてを「当事者」つまり「被災者」に呑み込んでしまいます。

だからこそ、人と人をつなぐ私たちの活動…ますます元気に根気強く続けていきたいものです。

当会主催研修会報告

去る1月29日(土) 10時30分~12時 市文化会館に於いて、『子どもが愛される児童コミュニティクラブ…子どもを支える…親を支える』(講師 当会副理事長 川延 宗之氏 大妻女子大学教授)を行いました。指導員を中心に15名の参加でした。

学童の目的 ◆子どもの安全を守る活動:安全とは大人が子供を保護することではなく、愛情を持って見守る事、自分の身は自分で守る事が出来ること。

子ども自身が「遊び」を通じて危険を察する知恵をつけること。例えば、鬼ごっこやだるまさんが転んだは、身を潜めたり、気配を感じ取る良い訓練。

◆子どもの放課後を豊かにする活動:豊かな生活体験。1960年代以前の子ども達が自然と身についた知恵が、現代では意図的な体験が重要になっている。

◆適切な集団体験:兄弟や家族が少ない環境は、物を分け合う体験があまりない。親子の様相も変わってきている。



児童コミュニティが目指すものは、言葉の通り学童保育の活動に加えて、コミュニティで子どもを支える活動。そして民間専門団体ならではの知恵を活用する施策。指導員は子どもが変わっていく姿、成長を確認できる楽しみがある仕事だという有意義な講義でした。

児童コミュニティクラブ

入学・進級おめでとうございます。今回の大地震の被災はかつてない程の大きなものとなり、自然の脅威の前に人はいかに無力か改めて知らされた気がします。被災された方々への心からの祈りを繰り返しながら、何か出来ることをはじめて少しでも前に進んで行かなくてはと思っています。

23 年度の入所説明会が 25 日（金）に比々多第 1・第 2 児コミで、26 日（土）に伊勢原第 1・第 2 児コミで無事に開くことが出来ました。お忙しい中、状況の不安定な中、多数出席して頂けありがとうございました。小学校の生活・新しい学年での生活に慣れて児コミで過ごす時間が安全で安心できる場になるよう心掛け、お子様の健やかな成長をご家族の協力を頂きながら指導員と共に活動して行きたいと思っています。宜しくお願ひ申し上げます。代表：神山



23 年度 指導員紹介

伊勢原第 1 コミ



雨宮

坂東

越地代表

樋口

三橋

川上

田原

伊勢原第 2 コミ



福山

片野

高橋

安武代表

中尾

木村

比々多第 1 コミ



大佐古

園谷

佐藤

大久保

岡代表

遠藤

河合

小澤

比々多第 2 コミ



与那覇

相澤

三輪

青木

高橋代表

三島

山口

初 釜

指導員さんの「六段の調」を聴きながら一服です。



けっこうなおてまえて



豆まき



おには外！ふくはうち！



工作教室



榎本先生
1年間、工作教室
ありがとうございました。



お誕生会



上手にできました！



お雛様制作



バルーンアート

風船の割れる音が苦手な児童もいました。



1人ひとつずつ作品を作ってもらえました。



ボランティアに携わる幸せ

今回の社協からの表彰大変うれしく思っております。これも地域福祉を考える会の会員の皆様とともに楽しく活動できる場があったからこそと感謝しております。私がボランティアを始めたきっかけは、私自身に自由な時間が持てるようになり社会との繋がりを失う不安を感じていた時、市の広報で「友愛初級講習」がある事を知り思いきって受講しました。この一步を踏み出す勇気をもったおかげで「友愛電話」「子育てひろばきらきら」に出会うことが出来ました。友愛電話では「電話を楽しみにしています。」と時間が足りないくらいお話し下さいます。私たちも貴重な知恵を授かったりします。子育てひろばきらきらでは、子供た



表彰おめでとうございます

ちが元気に遊びまわっています。利用されている方々からは「きらきらに来るのが楽しみです。もう少しひろばの回数を増やして!」と、とても喜ばれています。どちらの活動も皆さんに喜んでいただいで幸せを感じながら活動しています。微力ながらこれからも地域福祉を考える会の一員として無理せず楽しくお手伝いさせていただきます。



市社会福祉協議会表彰
受賞者 永田 信子さん



子育てひろば“きらきら”

1月に新しくミッキー柄のカーペットを遊びのコーナーに敷きました。ママにも好評(^o^)暖かく過ごせています。又遊具の購入には「ひろば」を利用されているママの意見も伺って、抱き人形やソフトブロック、ボールやパズルなどがふえました!新しいおもちゃは小さな子どもさんにもすぐに気付いて喜んで使ってもらえています。

*** 各部会の活動状況 (1月~2月) ***

【友愛電話活動】23年は1月6日より開始

- ✚ 1月実施日数(月:3日間/木:4日間)
- 2月実施日数(月:4日間/木:4日間)
- 月:午前利用者(10名) 午後利用者(8名)
- 木:午後利用者(10名)
- 28名で週1回友愛電話活動を行っています。
- ☆1月から新しいボランティアの方も活動しています。

【子育てひろば“きらきら”活動】

- ✚ 1月 47組 106人 (3回)
- ✚ 2月 40組 86人 (3回)
- ☆サポーター延べ46人でお迎えしました。



【成年後見受託事業】

- ✚ 定例会 第3火曜/作業会 第4火曜
- ✚ 1月:カラオケ(1/3)、家族会(1/22)参加
- 2月:家族会(2/26)等に参加
- ✚ 成年後見研修会(県社協主催)2/15・21参加

【児童コミュニティクラブ事業】

- ✚ 研修会 1/29
- ✚ 第3回代表者会議 1/29



花水木 俳句
大山路 枝整えし 武者祭
踵を返す 冬の鳥

高部 (小稲葉在住)

編集後記

3月11日の大地震の映像にとっても衝撃を受けました。今まで当たり前のように飲んでいた水や、電気が使える生活が、ありがたい事だと痛感しています。被災地の方へのお見舞いと皆様のご健康をお祈りします。

いよいよ新年度が始まります。今年度も宜しく願います。 事務 秋山

